令和７年度事業報告

〔事業活動〕

令和 7 年 3 月 27 日（木）開催の理事会において承認を得た 2025（令和 7）年度事業計画に基づき各事業を推進した。その概要は次のとおりである。

柱１　国際相互理解の促進

(1)　講演会、シンポジウム等の開催

ア　国際理解講演会等の開催

会員をはじめ道民の国際理解を深めるため、講演会を開催した。

日　時　6 月 25 日（水）
場　所　京王プラザ札幌　地下１階プラザホール
テーマ　『トランプ政権と日米関係の今後を読み解く ～世界の今を知るために』
講　師　共同通信社札幌支社長　木下　英臣　氏
参加者　70人
後　援　北海道



国際理解講演会（京王プラザホテル札幌）

イ　北方圏講座の開催

北方圏諸国の産業経済や生活文化等に関する蓄積を学び、地域づくりに関する情報交換を図るため、関係機関と連携しセミナーを開催した。

① 第1回「ピースボートでの世界1周を終えて」

日　時　2月3日（火）
場　所　アスティ45 13階 開発工営社会議室
講　師　西当別中学校校内教育支援センター　中澤　壮王　氏　氏
参加者　40人
共　催　北海道スウェーデン協会

② 第2回「北海道とフィンランドの友好～次の50年に期待すること」

日　時　3月7日（土）
場　所　京王プラザホテル札幌 ローズルーム
講　師　タンヤ・ヤースケライネン　駐日フィンランド特命全権大使
参加者　80人
共　催　北海道フィンランド協会
後　援　在札幌フィンランド共和国名誉領事館

ウ　北太平洋地域研究事業（国際情勢セミナーの開催）

北太平洋地域における学術研究を進めるため、道内経済団体や交流関係者、大学等を連携し、北東アジア等の政治経済・外交関係などをテーマとしてシンポジウムを開催した。

① 第 14 回 北海道で考える北東アジア国際情勢シンポジウム

日　時　2月27日（金）
場　所　北海学園大学教育会館
テーマ　「第2次トランプ政権の激震～グリーンランド問題の北東アジアへ影響」
報告者　北海道大学北極域研究センター特任准教授　大西富士夫　氏
　　北海学園大学法学部准教授　高橋美野梨　氏
　　道立オホーツク流氷科学センター所長　大塚　夏彦　氏
参加者　50人（オンラインを含む）
共　催　北海学園大学開発研究所



国際情勢シンポジウム（北海学園大学）

(2)　国際関係情報の収集・提供

ア　調査研究・資料収集事業

対外経済交流関係の各種事業への参画や調査・情報収集を行い、ホームページや「Hoppoken」誌上等で成果を発表した。

イ　国際情報ネットワーク事業

インターネットを活用して国際交流等の情報や事業報告などをタイムリーに提供するとともに Facebook で主催事業等の告知を行い、広く周知に努めた。

ウ　年報発行

特集記事や事業報告、予算・決算などを掲載した年報を 9 月に発行し、会員や関係団体、市町村等へ配付した（1,200 部）。

エ　「Hoppoken(北方圏)」誌の発行

会員をはじめとした道民に、国際理解の促進に資する情報や、国際交流等の取組に関する情報提供を目的に、年 2 回発行した（各 1,100 部）。

① 198 号　9 月発行
特　集－「いつまで続くトランプ氏『我が世の春』」
その他－「多国籍化する道内外国人労働者、10 年で 4 倍」



② 199 号　3 月発行
特　集－「アフガニスタン掌握のタリバン復権５年で変化は」
その他－「トランプのグリーンランド『所有と管理』発言を読む」



オ　国際情報発信事業

道内の多文化共生や国際交流・協力に関する取組などをホームページで紹介した。

(3)　海外派遣研修

ア　高校生×SDGs 世界の架け橋養成事業

北海道と世界とをつなぐ架け橋として活躍する人材を育成するため、道内の高校生を海外に派遣し、SDGｓや環境問題など様々な地球規模の課題をテーマに、現地視察や関係者との交流を行った。

日　時　1月5日（月）～ 8日（木）
訪問国　カンボジア（プノンペン）
参加者　高校生 8人
研修会　事前研修 3回、事後研修 2回
報告会　3月22日（日）



世界の架け橋養成事業
（カンボジア）

イ　済州国際青少年フォーラム 2025

国際的な視野を持つ未来のグローバルリーダーの育成と青少年のネットワークづくりのため、北海道と友好提携地域である韓国・済州特別自治道が主催するフォーラムへ高校生を派遣した

日　時　10月28日（火）～ 11月1日（土）
参加者　高校生 3人
　　（フォーラム参加者 13ヵ国・地域 140人）
研修会　事前研修 3回、事後研修 2回
報告会　3月22日（日）



済州国際青少年フォーラム 2025
（済州特別自治道）

(4)　多文化共生の推進

ア　多文化共生ネットワーク連携推進協議会との連携

関係団体と協働して多文化共生の実現を推進するため、道内国際交流団体間ネットワークの連携強化に取り組むとともに、協働して多文化共生の実現に資する事業を実施した。

構成団体（13団体）

（一財）北海道国際交流センター、室蘭工業大学国際交流センター、
（一社）滝川国際交流協会、旭川市国際交流委員会、釧路国際交流の会、
北見工業大学国際交流センター、十勝インターナショナル協会、
留学生フレンドシップ、（一社）ニセコプロモーションボード、
恵庭国際交流プラザ、石狩国際交流協会、江別市国際交流推進協議会、
（一社）北海道多文化共生 NET

① オンライン会議　5月8日（木）及び12日（月）　13団体16人

各構成団体が今年度予定している多文化共生事業について情報共有するとともに、地域連携事業の実施に向けた説明などを行った。

テーマ　・各団体における令和7年度の主な取り組みについて
　　・令和7年度多文化共生地域連携事業の実施について

② 協議会構成団体との多文化共生連携事業

構成団体と地域の多文化共生を進める事業を共催した。

日　　時　6 月～2 月
共催団体　5 団体
内　　容　全 9 事業
（事業の詳細は P11「(5)－ア　地域連携ネットワーク事業」に記載）

イ　多文化共生の各種取組

道内各地域において外国人との共生に向けた環境づくりを一層推進するため、各種事業を実施または協力した。

① 胆振管内自治体職員合同研修会

多文化共生をテーマに、地域行政の諸課題の解決に向け、市町と振興局の若手職員が一堂に会し、現場での実体験を通じて得た課題認識に基づく意見交換の場を目的とした研修会に講師として協力した。

・洞爺湖町

日　時　7 月 2 日（水）～3 日（木）
場　所　洞爺湖文化センター
参加者　19 人
1 日目　講義「多文化共生とは？～必要な視点と取組事例」「災害時の外国人支援」
ワークショップ「災害時の外国人対応を体験」
講義「多文化共生を目指したまちづくり」
2 日目　グループワーク ～ 多文化共生事業の策定

② 多文化共生啓発事業（多文化共生セミナー）

人口減少が深刻な道内で、存在感を増す在住外国人との共生に向け「地方創生 2.0」などの政府の取り組みと道内各地の事例を俯瞰し、今後の地域求められる施策の具体例をイメージする契機とするため、多文化共生セミナーを開催した。

・千歳市

日　時　9 月 9 日（火）
場　所　北ガス文化ホール（オンラインも併用）
参加者　68 人
テーマ　「これからの地域づくりと多文化共生」
講　演　「地方創生 2.0 と多文化共生の推進」
講　師　内閣府新しい地方経済・生活環境創生本部事務局企画官
西村 康 氏
事例紹介　技能実習生の受入事例
久健興業株式会社代表取締役 山口　健 氏
道内自治体の取り組み状況
HIECC 多文化交流部　小田島 道朗
多言語コールセンターの紹介
ランゲージワン㈱執行役員 カブレホス・セサル 氏
パネルディスカッション
進　行　一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事 田村 太郎 氏
パネリスト 事例紹介登壇者（上記 3 者）

③ 北海道原子力防災総合訓練への在住外国人の参加（北海道委託事業）

北海道が実施した「北海道原子力防災訓練」の一環で、翻訳ツールや外国人相談センターとオンラインで連携し通訳を介した情報伝達など、在住外国人の対応力向上を目的とした訓練に参加した。

日　時　10 月 29 日（水）
場　所　余市町、北海道外国人相談センター（HIECC）
参加者　外国人 10 人

④ 災害時外国人対応力向上研修

各総合振興局や自治体等で実施した、災害時外国人支援における職員等の対応力向上を目的とした研修会や外国籍住民向け防災講座に講師として協力した。

・ 檜山振興局
日　時　11 月 1 日（土）
場　所　せたな町役場 第 1 会議室・健康センター総合健診室
内　容　講義（日本人向け）、防災セミナー（外国人向け）、ワークショップ
参加者　外国人 29 人、日本人 12 人

・ 宗谷総合振興局
日　時　12 月 7 日（日）
場　所　宗谷総合振興局
内　容　外国籍住民向け防災講座
参加者　外国人 30 人

・ 十勝総合振興局
日　時　2 月 25 日（水）
場　所　十勝合同庁舎　AB 会議室（帯広市内）
内　容　講義、ワークショップ
参加者　25 人

ウ　北海道多文化共生アワード（表彰事業）

道内在住の外国人と道民がともに地域の発展や活性化に貢献できる社会を実現するため、人材育成、居住環境、防災、教育、地域づくりなどさまざまな分野における顕著な取組を募集したが、表彰対象の事業の応募はなかった。

エ　「北海道外国人相談センター」の運営（北海道委託事業）

道内在住外国人等のさまざまな相談に多言語で対応するため、「北海道外国人相談センター」を運営した。

体　　制：常勤 4 人 ～ センター長、副センター長、主任相談員・副主任相談員
シフト 20 人 ～ 多言語相談員（英・中・韓・ベトナム・タガログ・タイ・インドネシア・ウクライナ）
対応言語：電話通訳システムも活用し、11 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ロシア語、ミャンマー語）に対応
開所時間：平日（午前）9：00～12：00　（午後）13：00～17：00
ホームページ：http://hiecc.or.jp/soudan
対応 SNS：Facebook、WeChat、Skype、LINE、KakaoTalk、WhatsApp、ほか
相談者数：1,654 人
相談件数：3,025 件

相談者の国籍：

国　籍	人数	国　籍	人数	国　籍	人数
日本	113	フィリピン	64	ウクライナ	24
中国	165	タイ	33	アジア諸国	141
台湾	27	カンボジア	0	アフリカ諸国	19
韓国	35	ミャンマー	19	ヨーロッパ	134
ベトナム	153	モンゴル	1	北米（ｱﾒﾘｶ、ｶﾅﾀﾞ等）	241
ネパール	13	ブラジル	0	南米（ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、ﾁﾘ等）	35
スリランカ	18	ペルー	0	オセアニア	43
インドネシア	45	ロシア	6	不明	325
				合　　計	1,654

主な相談内容：

分　野	件数	分　野	件数	分　野	件数
入管手続（更新、切替等）	1,069	教育(学校・大学等)	27	通訳・翻訳	149
雇用･労働	192	日本語学習	45	福祉	24
社会保険･年金	198	防災・災害	0	マイナンバー	7
税金	208	住宅	91	ウクライナ関係	17
医療	121	身分関係（結婚／DV等）	40	手続一般	41
出産･子育て	22	交通・運転免許	440	その他	334
				合　　計	3,025

① 移動相談会

道内各振興局地域で移動相談会を 20 回開催した。また、移動相談会に合わせ、外国人から関心の高い「入管手続き」や「年金」に関するセミナーを開催した。

十勝総合振興局　帯広市　　5 月 24 日（土）
釧路総合振興局　釧路市　　5 月 25 日（日）
渡島総合振興局　函館市　　6 月 14 日（土）／ 八雲町　6 月 15 日（日）
宗谷総合振興局　稚内市　　7 月 5日（土）／ 浜頓別町 7 月 6 日（日）
上川総合振興局　旭川市　　8 月 2 日（土）
空知総合振興局　滝川市　　8 月 3 日（日）
上川総合振興局　東川町　　8 月 29 日（金）
　　富良野市　8 月 30 日（土）
オホーツク総合振興局 紋別市　　9 月 6 日（土）
　　北見市　　9 月 7 日（日）
　　～ 年金基礎知識に関するセミナー
日高振興局　新冠町　10 月 4 日（土）
　　浦河町　10 月 5 日（日）
　　～ 入管手続に関するセミナー
根室振興局　中標津町 10 月 18 日（土）
　　根室市　10 月 19 日（日）
胆振総合振興局　室蘭市　11 月 8 日（土）
　　苫小牧市 11 月 9 日（日）
後志総合振興局　倶知安町 11 月 29 日（土）
胆振総合振興局　登別市　12 月 13 日（土）


移動相談会（稚内市）


セミナー（北見市）

石狩振興局　　恵庭市　12 月 14 日（日）
石狩振興局　　江別市　 1 月 31 日（土）
　　石狩市　 2 月 1 日（日）
後志総合振興局　倶知安町　3 月 8 日（土）～ 入管手続等に関するセミナー

② 休日相談会

平日に相談できない外国人からの相談に対応するため、休日相談会を 12 回開催した（北海道外国人相談センター内相談窓口）。

4 月 20 日（日）	8 月 24 日（日）	12 月 20 日（土）
5 月 17 日（土）	9 月 28 日（日）	1 月 25 日（日）
6 月 29 日（日）	10 月 26 日（日）	2 月 28 日（土）
7 月 13 日（日）	11 月 30 日（日）	3 月 14 日（土）

オ　ウクライナ避難民支援事業

日本国際連合協会北海道本部よりウクライナ避難民支援募金を引き継ぎ、北海道に滞在しているウクライナ避難民に対し、日本語学習や生活サポートなどの支援活動を実施した。

①　日本語学習支援

道内に滞在し日本語学習支援を希望する避難民に対し、生活する地域で孤立することがないよう、一般社団法人北海道日本語センター等へ委託し、日本語でコミュニケーションを図るための支援を行った。

・オンライン式日本語学習　毎週 1 回（札幌、函館、稚内、石狩）

②　生活費等支援事業

北海道へ避難してきたウクライナ人へ生活費等の支援を行うこととしていたが、今年度は対象者がいなかった。

③　北海道ウクライナ関連ワンストップサポート窓口

北海道外国人相談センター内に窓口を設置し、道内に避難しているウクライナ人の方々などからの相談対応を行った。

カ　日本語教育推進事業（北海道委託事業）

道内で生活する外国人の日本語教育を推進するため、（一社）北海道日本語センターの協力を得ながら、日本語学習を支援する人材を養成する講座や、昨年度養成講座を開催した自治体でのモデル事業を道内各地で開催した。

①　日本語学習支援者養成講座

・池田町（全 3 回）

10 月 31 日（金）　池田町社会福祉センター 会議室 参加者 26 人
11 月 14 日（金）　池田町社会福祉センター 会議室 参加者 23 人
12 月 5 日（金）　池田町社会福祉センター 会議室 参加者 30 人（うち外国人 5 人）

②　モデル事業

・新冠町

町主催の「やさしい日本語講座」受講者にも日本語学習支援者の対象を広げ、外国人住民との交流型で実施。

8 月 22 日（金）　レ・コード館
参加者 34 人（うち外国人 5 人）

・稚内市

対面式とオンラインのハイブリッド型で交流型の日本語サロンを実施。



日本語モデル事業（遠軽町）

9 月 28 日（日） 稚内市日ロ友好会館
参加者 23 人（うち外国人 11 人）

・遠軽町

地元高校生も日本語学習支援者として参加し、ゲーム形式で実施。

10 月 19 日（日） 遠軽町役場 会議室 参加者 23 人（うち外国人 5 人）

・岩見沢市

地元高校生の協力を得て、クイズや日本文化（茶道）をとおして日本語で交流を実施。

11 月 29 日（土） 岩見沢市生涯学習センター 参加者 45 人(うち外国人 11 人)

・中標津町

中標津町の国際交流員が中心となり、ゲームや季節の文化体験をとおして日本語での交流を実施。

1 月 17 日（土） 中標津町総合文化会館
参加者 16 人（うち外国人 3 人）

・登別市

登別市の多文化共生事業である「しょう会話」の一環として、学習支援者とともに日本語でさまざまなテーマの会話を実施。

1 月 22 日（木）
登別中央ショッピングセンター アーニス
参加者 13 人（うち外国人 7 人）



日本語モデル事業（登別市）

キ 外国人住民の地域共生推進事業（北海道委託事業）

外国人住民が国籍を問わず地域社会の一員として活躍し、安心して暮らすことができる環境づくりの取組を推進するため、外国人住民が企画段階から関わり日本人住民と協働で実施する事業を行った。

① 「防災研修」

日 時 11 月 18 日（火）
場 所 登別市 ～ 登別市役所 第一・第二委員会室
内 容 市役所職員向け災害時外国人対応力向上研修、外国人向け防災教室
人 数 24 人（うち外国人 4 人）

② 「しむかっぷカルチャー交流ＤＡＹ ～スリランカ文化を楽しもう～」

日 時 12 月 22 日（日）
場 所 占冠村 ～ トマムコミュニティセンター
内 容 スリランカの国の紹介料理、踊りなどのパフォーマンス、料理体験やいろいろな文化を紹介し、村内に在住する外国人の異文化を体験
人 数 72 人（うち外国人 20 人）

③ 「食でつながる地域食堂 ～ 台湾料理フェア～」

日 時 1 月 26 日（月）
場 所 北広島市 ～ 北広島団地地域サポートセンター
内 容 北広島団地地域サポートセンター「ともに」が運営する「地域食堂」において、周辺住民に対し、展示やゲームによる台湾文化の紹介、同食堂で台湾料理を提供し台湾文化を体験
人 数 23 人（うち外国人 16 人）



しむかっぷカルチャー交流 DAY（占冠村）



食でつながる地域食堂（北広島市）

柱２　国際交流の推進

(1)　諸外国との各種交流の実施

ア　南米ふるさと訪問団受入事業

北海道出身移住者子弟としてパラグアイからの訪問団を受入れ、父祖の地・北海道についての理解を深め、一層の友好親善に資するため、本道関係者との交流や文化施設の視察等を実施した。

受入期間　2 月 10 日（火）～2 月 17 日（火）
人　　数　6 人
視 察 先　札幌雪まつり大通会場、北海道開拓の村、エスコンフィールド HOKKAIDO、ほか



雪まつり見学（札幌市）

イ　「対日理解促進交流プログラム JENESYS2025」 韓国青年訪日団受入事業

（公財）日韓文化交流基金が招聘する韓国青年の受入事業において、北海道における地方プログラムとして、ホームステイや表敬訪問の受け入れなどを実施した。

道内受入期間　　7 月 12 日（土）～ 15 日（火）
韓国青年訪問団　全 30 名（うち学生 28 名）

ウ　アルモニア学園（ブラジル）受入事業

ブラジル・サンパウロ市に在籍するアルモニア学園の修学旅行における来道に際し、学校交流及びホームステイ等の受入に協力した。

受入機関　　7 月 15 日（火）～18 日（金）
人　　数　　15 人（引率者含む）
交流受入校　市立札幌開成中等教育学校

(2)　留学生の受入と交流

ア　外国人留学生国際交流支援事業

本道への留学受入を促進するため、北海道内の大学・大学院に在籍する外国人留学生の中から 50 人を「留学生サポーター」として選定し、母国の学生等に向けて北海道での留学生活に関する情報発信を行った（留学生サポーターには情報発信活動費として 5 万円／人を支給）。

・投稿件数　429 件

イ　外国人留学生受入促進事業

外国人留学生の受入を促進するため、海外の関係機関や大学・学生等に対し、道内大学のプロモーションを行った。

① プロモーションサイトの運営（http://study-hokkaido.com）

② 留学ガイドブックの作成、配付

③ 留学プロモーション

インドネシアの2都市で開催された日本留学フェア（主催：日本学生支援機構）に参加し、学生等へのプロモーションを行うとともに、北海道の大学の PR 資料を配付した。

11 月 22 日（土）　スラバヤ会場（来場者 1,173 人）
11 月 23 日（日）　ジャカルタ会場（来場者 5,355 人）



留学フェア（インドネシア）

④ 帰国留学生及び奨学金受給留学生向けメールマガジンの発行

帰国した外国人留学生等に対し、北海道の今の様子や就職など各種情報を提供するメールマガジン「ハイエックニュースレター」を発行し、本道への理解促進を図った（年 3 回）。

ウ　留学生地域交流施

外国人留学生の北海道に対する理解の促進を図り、地域の担い手として定着を促進するため、地域住民との交流や産業体験等を行った。

① 「留学生ふれあい交流 in 今金」

日　時　8 月 29 日（金）～ 30 日（土）
場　所　今金町　～　じゃがいも畑、選別工場、ピリカ旧石器文化館ほか
参加者　留学生 29 人（20 ヵ国・地域）

② 「留学生ふれあい交流 in 鶴居」

日　時　1 月 29 日（木）～ 30 日（金）
場　所　鶴居村　～　鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリほか
参加者　留学生 23 人（23 ヵ国・地域）


じゃがいも掘り体験（今金町）

エ　留学生支援体制構築事業

外国人留学生の受入や地域定着に向けて、江別市内の大学担当者と意見交換を行った。

日　時　11 月 27 日（木）
場　所　江別市内 4 大学（酪農学園大学、北海道情報大学、札幌学院大学、北翔大学）
参加者　10 人

(3)　海外移住者への支援

ア　移住者支援事業

北海道出身移住者などで組織する道人会等の活動を支援するため助成を行った。

（ブラジル北海道文化福祉協会、在アルゼンチン北海道人会、
全パラグアイ北海道人会連合会、北海道海外移住家族会）

イ　移住者子弟留学生・研修員受入事業

南米圏の北海道出身移住者の子弟を留学生および技術研修員として受入れ、研究や技術研修を行った。

・ 留学生受入　１人（アルゼンチン）
　　留学先　北海道大学大学院工学研究院 建築都市部門 建築設計学研究室

・ 研修員受入　２人（パラグアイ、アルゼンチン）
　　研修先　北海学園大学工学部 電子情報工学科
　　宮島学園 北海道調理師専門学校

(4)　各種交流事業への助成

北海道の産業経済・生活文化の発展に寄与するため、選考会における専門委員からの意見を踏まえ、道内の交流団体等が実施する各種交流事業に助成した。

助成対象事業名	事業内容	主催者	助成額（千円）
第17回日台友好合唱会	台湾からアマチュア合唱団を招聘し、北海道の合唱団とともに合同演奏会を開催	日台友好合唱会実行委員会	80
2025年北海道･カナダアルバータ州親善スポーツ交流	高校生の柔道選手をアルバータ州に派遣し、スポーツを通じた交流を実施	公益財団法人北海道スポーツ協会	300
ジュニアジャズ国際交流事業	ノルウェーで開催される国際ジャズフェスティバルへ札幌ジュニアジャズスクールの中学生クラスを派遣	公益財団法人札幌市芸術文化財団	300
北海道国際協力フェスタ2025	道内 NGO の活動を広く市民に紹介し、国際協力への理解促進や、参加する機会を提供	北海道 NGO ネットワーク協議会	85
計　4事業			765

(5)　地域、諸団体との連携

ア　地域連携ネットワーク事業

各地域や交流団体間の連携を促進するとともに、地域における多文化共生を進めるため、「多文化共生ネットワーク連携推進協議会」の構成団体と共催し多文化共生に関する事業を行った。

① 在留外国人向け地域理解の促進

ｱ)「地域巡検ツアー」・「スポーツ交流」

日時等　a) 6月15日（日）まちあるき 國学院大学北海道短期大学部学校祭
　　b) 6月29日（日）スポーツ交流 パークゴルフ体験
　　c）7月27日（日）まちあるき 北海道スカイスポーツフェア
　　d）8月28日（日）まちあるき 滝川神社周期例大祭
　　e）9月7日（日） バスツアー 旭山動物園

参加者　全事業計 86人（うち外国人40人）

主　催　一般社団法人 滝川国際交流協会

ｲ)「カーリング交流」

日時等　11月30日（日）　アルゴグラフィックス北見カーリングホール

参加者　36 人（うち外国人 22 人）
主　催　北見工業大学

② 地域住民との相互理解・交流

ｱ)「国際交流新年会 in 登別」
日　時　2 月 22 日（日）　鷲別コミュニティセンター
参加者　120 人（うち外国人 80 人）
主　催　いぶり外国人フレンドシップ

ｲ)「ゆかた de 出かけよう in 石狩」
日時等　8 月 9 日（土）　石狩八幡神社、石狩本町地区ほか
参加者　50 人（うち外国人 10 人）
主　催　特定非営利活動法人 石狩国際交流協会

③ 在住外国人の定着促進

「日本語学習支援のための講座」
日時等　7 月 12 日（日）、19 日（日）、26 日（日）
参加者　延べ 83 人（うち外国人 8 人）
主　催　江別市国際交流推進協議会

イ　関係団体との連携による交流事業

①　第 43 回全国中国語スピーチコンテスト北海道大会（主催：北海道日中友好協会）
中国語学習の普及と質の向上や日中両国民の相互理解と友情を深めるための「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」の開催に共催した。
日　時　10 月 11 日（土）　かでる 2.7

②　インターナショナルナイト（主催：北海道青少年科学文化財団）
日本の高校生や世界各国の留学生による相互理解を促進するため、それぞれの国や歴史や文化、自然や社会、教育事情についてプレゼンテーションや交流会の開催に共催した。
日　時　12 月 13 日（土）　かでる 2.7、アスティホール
参加者　日本人 202 人、外国人 27 カ国 35 人

③　国際際交流「DAY」事業（主催：北海道）
北海道と姉妹・友好提携地域とのより一層の交流拡大を図るため、各提携記念日等にそれぞれの地域の文化紹介イベントの開催に共催した。
- 米国・ハワイ州　　4 月 16 日（水）～22 日（火）　丸井今井札幌本店
- 韓国・4 地域（釜山広域市、慶尚南道、ソウル特別市、済州特別自治道）
  7 月 1 日（火）　札幌市教育文化会館
- カナダ・アルバータ州　　7 月 20 日（日）どうぎんカーリングスタジアム
- 中国・黒竜江省　　8 月 23 日（土）～24 日（日）札幌市北三条広場
- 米国・マサチューセッツ州　2 月 5 日（木）札幌グランドホテル
- タイ・チェンマイ県　　3 月 21 日（土）大和ハウスプレミストドーム

④　国際交流定例講演会（主催：北海道国際女性協会）
女性が主体となり諸外国から来道する外国人に北海道の文化など理解を促進するため、定例講演会の開催に共催した。
・第 1 回　「 ノースウェスト・イングランド～英国北西部の文化と人々」
日　時　5 月 22 日（木）

参加者　25 人

・第 2 回　「坐禅体験会」

日　時　7 月 12 日（土）

参加者　28 人

・第 3 回　「倶知安町立西小学校樺山分校の子供たち（訪問研修）」

日　時　9 月 25 日（木）

参加者　16 人

・第 4 回　「『幸福度』から『平和』へ、そして『SDG s /ESD』へ」

日　時　11 月 28 日（金）

参加者　26 人

⑤　第 8 回国際ユースフォーラム(IFY)札幌（主催：北海道日米協会）

日米の交流を担う人材を育成するため、道内の高校生・大学生等が、日米の親善と交流をテーマにワークショップ形式の討論会の開催に共催した。

日　時　11 月 9 日（日）　京王プラザホテル

参加者　高校生　40 人

⑥　第 45 回北海道カーリング選手権大会兼アルバータ杯カーリング大会

（主催 : 北海道カーリング協会）

カナダ・アルバータ州と北海道との友好関係の促進と日本選手権の出場権チームを選考するため、同大会の開催に共催した。

日　時　2 月 17 日（火）～22 日（日）　稚内市

参加者　16 チーム

ウ　ハイエック後援事業

名義後援を行った事業は以下のとおり

No	実施日	事業名	主催団体
1	5/25	シベリウス生誕 160 年記念公演「Kullervo in HOKKAIDO」	日本シベリウス協会、日本シベリウス協会北海道支部
2	6/14	くしろ国際交流フェスタ	JICA 北海道センター（帯広）
3	11/3	JICAfe 2025 in なかしべつ	JICA 北海道センター（帯広）
4	11/19～20	第 41 回寒地技術シンポジウム	（一社）北海道開発技術センター
5	11/22～24	第 46 回 NHK 杯カーリング選手権大会	同実行委員会
6	12/6	北海道国際協力フェスタ 2025	北海道 NGO ネットワーク協議会
7	2/6～11	第 67 回旭川冬まつり	同実行委員会
8	2/8	第 36 回おおたき国際スキーマラソン	同実行委員会
9	2/14	アジアと北海道のつきあい方 Part15	NPO 法人日本自治 ACADEMY
10	2/15～18	第 40 回北方圏国際シンポジウム	同実行委員会
11	2/21～22	第 37 回昭和新山国際雪合戦	同実行委員会

柱３　国際協力の推進

(1)　開発途上国向けのＪＩＣＡ研修事業への参画

開発途上国の国づくりを担う人材の育成に協力するため、JICA 北海道国際センター（札幌）が実施する研修事業の一部を受託し、研修実施機関とのカリキュラムの調整や研修のコーディネートを行った。

期　間	研修コース名	人数
6 月 18 日～8 月 8 日	課題別 上水道施設技術総合(B)	9 人
8 月 22 日～9 月 24 日	課題別　中南米地域　道の駅による道路沿線地域開発	5 人
10 月 15 日～11 月 21 日	課題別 道路維持管理（B）	9 人
2 月 2 日～2 月 20 日	青年研修 高齢者福祉・介護（スリランカ国対象）	8 人



道路維持管理コース（札幌市水道局）



高齢者福祉・介護コース
（吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校）

(2)　海外からの研修員等の受入（再掲 P11 (3)-イ）

南米圏の北海道出身移住者の子弟を留学生および技術研修員として受入れ、研究や技術研修を行った。

- 留学生受入　１人（アルゼンチン）
  留学先　北海道大学大学院工学研究院 建築都市部門 建築設計学研究室

- 研修員受入　２人（パラグアイ、アルゼンチン）
  研修先　北海学園大学工学部 電子情報工学科
  宮島学園 北海道調理師専門学校



専門研修
（宮島学園北海道調理師専門学校）



道内研修
（網走市）

〔管理部門〕

1　会員の状況

令和 7 年度においては、新規の加入が 16 件（個人会員 12、法人会員 4 件)、退会が 22 件（個人会員 9 件、法人等会員 13 件）あり、会員数は 6 減となった。

道内市町村や大学、また外国人労働者を多く受入れている業界団体（建設業、観光業、農業、水産加工業）や技能実習生管理団体などに対し会員加入促進を行った。

区　　分		令和 7 年度当初会員数	増　　減			令和7年度末現在会員数
			入会数	退会数	差引増減	
個人会員	一般会員	６８	5	8	△３	６５
	学生等会員	2	4	0	4	6
	主婦(夫)等会員	2	0	0	0	2
	シニア会員	１９	3	1	2	２１
	特別会員	2	0	0	0	2
	個人会員計	９３	１２	9	3	９６
法人等会員		４２２	4	１３	△９	４１３
合　　計		５１５	１６	２２	△６	５０９

2　会議の開催

令和 7 年度の開催状況は次のとおり。

(1)　総　会

令和 7 年度通常総会

令和 7 年 6 月 25 日（水）14:30～　京王プラザホテル札幌

出席　　会員総数 516 のうち 361　（出席 48、委任状出席 313）

内容　　令和 6 年度決算を承認

令和 6 年度事業報告を報告

令和 7 年度事業計画及び予算の理事会決定を報告

理事の選任

(2)　理事会

ア　第 1 回理事会

令和 7 年 5 月 20 日（火）13:30～　ホテルポールスター札幌

出席　　理事総数 24 名のうち 14 名、監事 2 名のうち 2 名

内容　　令和 6 年度事業報告を承認

令和 6 年度決算を承認

通常総会の招集を議決

イ　第 2 回理事会

令和 8 年 3 月 26 日（木）13:30～　ホテル札幌ガーデンパレス

出席　　理事総数 24 名のうち 14 名、監事 2 名のうち 1 名

内容　　令和 8 年度事業計画及び予算を承認

予算の補正に関する専決処分を承認

顧問の委嘱を承認

新顧問　遠藤達哉　北海道開発局長

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないため、作成しない。

３　他団体への役員等就任状況

職・氏名	団体名（就任年）	就任している役職名
会長 （辻　　泰 弘） （7 団体）	日本ユーラシア協会北海道連合会（2002 年～）	顧問
	北海道ユネスコ連絡協議会（2004 年～）	〃
	（公財）北海道スポーツ協会（2014 年～）	〃
	北海道カナダ協会(2000 年～)	〃
	北海道国際女性協会（2001 年～）	〃
	北海道日米協会（2020 年～）	理事
	北海道留学生交流推進協議会（2005 年～）	委員
副会長兼専務理事 （長谷川 浩幸） （11 団体）	（一社）北海道開発技術センター（2001 年～）	理事
	（一財）スウェーデン交流センター(1983 年～)	〃
	北海道カナダ協会(2011 年～)	〃
	北海道国際音楽交流協会（1997 年～）	〃
	北海道スウェーデン協会（2007 年～）	〃
	（公財）アイヌ民族文化財団（2005 年～）	評議員
	（公財）新千歳空港周辺環境整備財団（2002 年～）	〃
	（公財）札幌国際プラザ（2002 年～）	〃
	公益信託北海道開発国際交流基金運営委員会（2007 年～）	委員
	北海道グローバル戦略有識者会議（2021 年～）	〃
	北海道日本語教育推進会議（2023 年～）	〃
事務局長 （曽根　宏之）(1団体)	（公社）北方領土復帰期成同盟（2015 年～）	監事
総務部長 （金子　徳之）(1団体)	北海道留学生交流推進協議会運営委員会（2005 年～）	委員
多文化交流部 部長代理 （小田島 道朗） (5 団体)	苫小牧市多文化共生推進会議（2023 年～）	座長
	根室市多文化共生推進プラン策定委員会（2025 年～）	〃
	北海道外国人材受入れ・定着・共生連携会議（2020 年～）	委員
	北海道教育委員会　「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業運営協議会」（2018 年～）	〃
	きたひろしま多文化共生施策懇話会（2024 年～）	〃

※（　　）は現役職員